

絵本の公園



新型コロナ禍の中のおはなし会(活動日誌より)

私たちは、旭が丘中央公園内にある旭が丘地区センターで第2と第4水曜日、ひまわり号の巡回に合わせて、絵本の読みきかせをしています。

ほぼ1年間、活動を中止していましたが、今年3月21日、2回目の緊急事態宣言解除後、図書館と同様に、私たちも活動を再開しました。感染対策は、図書館のおはなし会に準じました。手指の消毒、マスクとマウスシールド着用、窓を開けての換気。読み手と子供たちの間にはスクリーンを置いています。来てくださった親子さんには、連絡先を書いていただき、管理はひまわり号お願いしました。

4月14日、窓から見える公園の木々を背景に、1年ぶりのおはなし会です。始めは、緊張して戸惑いましたが、少しずつ勘も戻ってきました。どなたも訪れない日もありますが、顔なじみの親子さんも増えてきました。訪れる子どもたちは、0歳～3歳、1日1～7人。好きな本や紙芝居を一生懸命に選んで、「読んでー」と持って来ます。そして、何度も手を振って、帰って行きます。私たちは、そんな姿を微笑ましく見守っています。

一番人気は、大型絵本の「ぴょーん」です。子どもたちは、ママと一緒にジャンプ。そして、カタツムリのところで、飛ぶ前の恰好のまま、首を傾げて「コケッ」。最後はママの高い高いで、大きく「ぴょーん」。一日に何度も、読む日もあり、どの子も笑顔になります。

美しい日本語に馴染んでほしいと、読み手が選んだ絵本、わらべうた、手遊び、ペープサートや手袋の人形で、お話ししたり一緒に歌ったりもしています。この夏、1日の新型コロナウイルス感染者数が東京都で5000人、日野市でも50人を越える日もありました。この場所から、患者さんを出さないようにと、祈るような思いで過ごしました。

9月30日、4回目の緊急事態宣言解除。マウスシールド着用、連絡先の記入はなくなりました。ひまわり号はじめ、地区センターの方々に、たくさんサポートして頂いています。感謝しつつ、一日も早くコロナの感染が収まって、安らかな日常が戻ることを、願ってやみません。

